

FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 高橋 正

所属/職名： 知能情報学部／教授

参加セミナー名： IDE 大学セミナー 大学教育のオープン化

セミナー参加日時/場所： 2014 年 8 月 22 日 13:30～17:40／京都大学百周年時計台記念館

1 階百周年記念ホール

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

セミナー内容としては、オープンエデュケーションの位置付けとそのことを体現するためのラーニング・コモンズの現状を世界的な動向と日本における現状として、話題提供の形式で紹介された。話題提供については、内容およびその流れをテンポよく話されていたため、理解しやすく、その意義を実感することができた。

所感としては、最初は、ラーニング・コモンズでの活動は、昔の学生達を思い起こすと大学の近所の喫茶店や学内で学生の屯す場所の提供に過ぎないのではないかと思っていた。しかし、ラーニング・コモンズのような学習環境の提供が、世界的なオープンエデュケーションとの関わりから考え出された仕組みであることを知り、これまでの私の概念と異なることを実感した。そして、現状の大学生に対し、学習の場を提供し、学生の学習をアクティブにするための諸策が実践されていることを、改めて理解した。特に、ラーニング・コモンズは授業外学習を通じての主体的な学びへのエンゲージメントを促進すること、教員が学生にラーニング・コモンズを利用させるような工夫あるいは働きかけが効果的であること、継続的な学生の自立的学習とエンゲージメントにおけるラーニング・コモンズの効果の検証が必要であることを理解した。

これらを踏まえて、授業や本学への活用として、(大学における)低学年の学生に対し授業や個人指導において具体的にラーニング・コモンズを活用することを指示することが必要であると思った。現状、甲南大学の多くの学生は、大学での授業後家に直行(帰宅)することが多く、自ら学習する習慣を身につけていない。学生達が自ら学習する方法を身に付けるためには、低学年の授業や個人指導において初期段階では、ある程度強制的にラーニング・コモンズを活用させることが必要であると思った。